

令和元年度 第1回加古川市いじめ防止対策評価検証委員会 議事録概要

会議名称	第1回加古川市いじめ防止対策評価検証委員会
開催場所	加古川市立青少年女性センター 4階 大会議室
開催日時	令和元年5月29日(水) 18時30分から20時
出席者	委員：浅野良一、住友剛、曾我智史、菱田準子、吉田圭吾 事務局職員：小南克己、高井正人、吉田秀司、山野貴史、山本照久、杉本達之、神吉直哉、境眞稔、今津幸央、松浦幹雄、長谷中史敏、堀之内健志、宝来美由紀、岡本ひとみ、宮内義英
会議次第	1 開会 2 議事 (1) 平成30年度取組状況に係る評価検証(3学期) (2) 平成30年度取組状況に係る評価検証(年間) (3) 令和元年度「加古川市いじめ防止対策改善基本5か年計画」の推進に係る報告 (4) 令和元年度の推進体制について (5) 令和元年度 第2回加古川市いじめ防止対策評価検証委員会の開催について (6) その他 3 閉会
配付資料	1 第1回加古川市いじめ防止対策評価検証委員会 次第 2 「加古川市いじめ防止対策改善基本5か年計画」の取組状況(平成30年度3学期) <b>資料3</b> 3 平成30年度 加古川市いじめ防止対策改善基本5か年計画の取組状況について <b>資料4</b> 4 平成30年度「いじめ防止対策改善プログラム」に基づくいじめ防止対策取組状況自己点検シートまとめ <b>資料5</b> 5 加古川市いじめ防止対策改善基本5か年計画(2019年度版) <b>資料6・7</b> 6 加古川市いじめ防止対策改善プログラム 全体計画・年間計画(各学校分) <b>資料8</b> 7 令和元年度「加古川市いじめ防止対策改善基本5か年計画」及び「いじめ防止対策改善プログラム」推進体制 <b>資料9</b> 8 令和元年度 学校生活適応推進事業実施要項 <b>資料10</b>
傍聴者	11人(内、報道関係者3人)

会議要旨（発言者、発言内容、審議経過等）

(委員長)	<p><b>1 開会</b></p> <p>いじめ防止に向け、より効果的、効率的な方策を追求していく。また教員や学校が自ら主体的にやってみようという働きかけを提案し、市民の皆さんに分かりやすい取組を議論の中で心がけていく。</p>
(事務局)	<p><b>2 議事</b></p> <p>(1) 平成 30 年度取組状況に係る評価検証（3 学期）          &lt;事務局説明&gt;</p> <p>(2) 平成 30 年度取組状況に係る評価検証（年間）          &lt;事務局説明&gt;</p>
(委員長)	<p>評価の是非について、いじめの認知件数がかかなり増えたような話であったが、昨年からどれくらい件数が増えて、どうなったか教えていただきたい。</p>
(事務局)	<p>平成 29 年度はいじめの認知件数が 290 件あったが、平成 30 年度は 676 件（速報値）となり約 2.3 倍に増加した。これは、些細なことでも、被害者性に寄り添うことを繰り返し学校に何度も伝えてきたことにより認知が進んだもので、現在は適切な対応をし、見守り期間に移行していたり、解消していたりすると報告を受けている。</p>
(委員)	<p>資料 5 の自己点検シートについて、取組が進んでいる学校もあるが、工夫していることをどのように学校間で共有しているのか。</p>
(事務局)	<p>「アセス推進担当者」・「教育相談コーディネーター」各学校の担当者が、集まる研修会において情報交換を行っている。</p>
(委員)	<p>認知件数が増えたことは非常に大切なことであると受け止めているが、認知件数が増えたときに、いじめの認知のプロセスはある程度分かっているのか。認知のプロセスの情報があれば教えていただきたい。また、認知のプロセスの統計をどのように取るのかについて今後検討していただきたい。</p>
(事務局)	<p>プロセスについては、昨年度から取り組んでいる「教育相談」が一番である。アセスでどれくらいの教師がいじめに気付いたのかという詳細なデータは、統計を取っていないため不明である。</p>
(委員)	<p>いじめの認知をしていた児童生徒がやはり低かったのではなく、わからなかったのにアセスで分かったという件数などを共有していくことで、アセスの活用が広まり深まっていくというような観点も必要であると思う。また、自己点検シートにおいて、取組が不十分だったという点についてコメントがあるが、十分に取り組んでいるところについてもコメントをつけることで、その取組がいかにかうまくいっているのかという評価もできるので、今後参考にしていきたい。</p>
(委員)	<p>資料 4 について、学期ごとに改善プログラムの実施状況を学校へ訪問し、指導助言を行ったということだが、具体例を一つ上げていただきたい。</p>
(事務局)	<p>夏休みや冬休みの長期休業期間中に訪問し、1 時間程度の聞き取りで特に重要視したのは課題、重点的な取組、特徴的な取組を中心に聞いている。具体的には、アンケートの工夫やコミュニケーションを図るための様々な取組が進んでいる。課題については、中学校では、教育相談の時間の確保が難しいという課題があったが、学校の実情に合わせて柔軟に取り組んでいけるようにしたことで、改善を図ることができた。今後も学校とヒアリングを重ねながら課題解決に取り組んでいきたい。</p>

(委員)	教育相談の時間確保が難しいというのはどういった要件で難しいと考えているのか。
(事務局)	中学校は、授業時数の問題がある。授業時間がタイトになっているにもかかわらず、台風による休校やインフルエンザによる学級閉鎖もあった。そのような中でも、1単位の時間を少し短くして時間を捻出し教育相談に回しているという地道な努力をしている。
(委員)	頑張っている学校の先生方の働き、あるいは教育委員会として頑張っている様々な動きが、子どもたちからどう見えているのかがポイントになるので、子どもたちからどう見えているかを知りたい。 また、教育委員会によるヒアリングは、大変だと思うがやめなくてほしい。 そして、スクールロイヤーの活動の中で、部活動内のいじめ問題の対応について差し支えのない範囲で教えてほしい。
(事務局)	1つ目の、「子どもにどのように見えているか」については、アセスのデータの中の教師サポートをとという数字をもとに考察している。昨年度は、1回目のアセスの結果と、2回目のアセスの結果を比較して考察した結果、いずれの学年も伸びが見られた。 2つ目のヒアリングの継続については、今年度も継続していく予定である。 3つ目のスクールロイヤーの活動については、部活動内のいじめについて、被害側から次々に要求がエスカレートしたため、理不尽な要求に対してどのように対応すればよいのかを考えていただいたというケースである。
(委員)	スクールロイヤーが、直接、事案に対応したのか。
(事務局)	スクールロイヤーの助言を教育委員会が学校に伝える形で対応した。
(委員)	アセスのサポートの件について、高ければいいというものではない。通常は6%程度の子どもは、教師に対して不信感を持っているというのが健全なクラスであるという意味なので、それより高いとそれはそれで問題ではないかという視点をもって多角的に検討していただきたい。
(事務局)	(3) 令和元年度「加古川市いじめ防止対策改善基本5か年計画」の推進に係る報告 <事務局説明>
(事務局)	(4) 令和元年度の推進体制について <事務局説明>
(委員長)	それぞれの立場から助言、意見等を述べていただきたい。
(委員)	私からは2点お願いしたい。1点目は、5か年計画2019年版に児童の生命に関する条約、子どもの権利条約の話を入れていただいたので、未然防止への取組の「人権教育の充実」のところで、子どもの権利条約を知ってもらう機会を設け、また教職員の研修については、早期発見・早期対応への取組の「研修の充実による教職員の資質と指導力の向上」に、子どもの権利条約に触れる機会が欲しいと思う。 2点目は、保護者への相談支援、広報誌、ホームページを活用した情報発信の推進という未然防止への取組の「家族や地域への働きかけ」もとても大事なことだと思う。資料8の情報発信では、学校HPとかPTA活動、学年だよりによる情報発信という形になっているが、加えて市政だよりとか市政ニュースなどで、教育委員会と各学校の連携した取組情報を流したり、リーフレットを配り、子どもたちに対し自殺予防教育をやっている情報を伝えたりしながら、保護者になかなか情報が伝わらないという課題を解決しなければならないかと思う。この2点、ぜひご検討いただければと思う。
(委員)	令和元年度の計画の中に、いじめを認知した後の対応の具体的事例を報告していた

<p>(委員)</p>	<p>だきたい。具体的な事例を検証することで、より効果的な助言ができると考える。</p> <p>指導主事が、アセス、心の相談アンケート等についての聞き取りで各学校に訪問する際、委員の同行は可能か。どのような話を実際しているかが知りたい。</p>
<p>(委員)</p>	<p>評価検証委員会において、3年前のことを風化させてはいけない。いじめ防止の目的はいじめをなくすことではなく、いじめられて気づかれず、苦しんでいる児童生徒をなくすことが大事だと思う。アセスもうまくいっているし、クラス経営もうまくいっていて、大丈夫だと思っていると、そこに隙ができて、見逃されている児童生徒もいるのではないかということだと思う。取組がうまくいっている中でも、ひょっとしてうまくいっていない部分がないかなという姿勢がクラスでも学校でも大事なのではないか。教師の気づきがものすごく大事で、担任だけでなくチーム学校の精神を基に全教師で対応していくことが大事だと考える。</p>
<p>(委員)</p>	<p>加害側の子どもも支援を必要とする子どもであり、それに対する手立てをもっと意識的に行うべきだと思う。加害側の子どもたちは、自分たちの行いが発見され、指導されることで何かを学び成長していくものである。教師にはこのような指導を行っていただきたい。</p>
<p>(委員長)</p>	<p>今年度、いろいろな取組をされているところで、なかなか見えにくいところ、順調に見えている時の落とし穴、そういったところを専門家よりご指摘をいただいた。また是非、いい取組にしていきたい。第2回の評価検証委員会では1学期の取組状況について事務局から説明を受けて、検証したいと思う。</p>
<p>(委員長)</p>	<p>(5) 令和元年度 第2回加古川市いじめ防止対策評価検証委員会の開催について  &lt;事務局説明&gt;  第2回目の評価検証委員会は、令和元年9月25日18時30分から開催する。</p>
<p>(事務局)</p>	<p>(6) その他  &lt;事務局説明&gt;  生徒会・児童会代表者ミーティングの日程の件だが、9月1日のいじめ市民フォーラムの講演をしていただき講師に指導に入っていただき、子どもたちをファシリテートしていただくことになっている。委員の皆様には子どもたちの様子を見ていただいた後で、ご意見をいただくことになる。</p>
<p>(委員長)</p>	<p><b>3 閉会</b>  活発な議論をしていただき、中身の充実した会議となった。非常に優れた取組をしていることが分かった。2年目の今年度も、全国モデルになるようなよい取組をしていきたいと思う。</p>